

# ハブって どんない動物？

ハブは、脊椎動物爬虫類有鱗目クサリヘビ科スラムシ亜科に分類される毒蛇で、アジアに生息する毒蛇の中では最大の種類で、全長が2メートルを超える場合もあります。

奄美群島では奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島、徳之島に生息していますが宮界島、沖永良部島、与路島には生息していません。

ハブは6月から7月にかけて平均して8〜10個ぐらいの卵を産卵します。卵は、自然界では約40日で孵化します。孵化したときは40センチメートルくらいのがわいい子ハブですが、持っている毒の強さも攻撃する能力も親ハブと変わりません。3年ぐらいて繁殖能力を持つ110センチメートル前後の成蛇に生育すると推定されています。

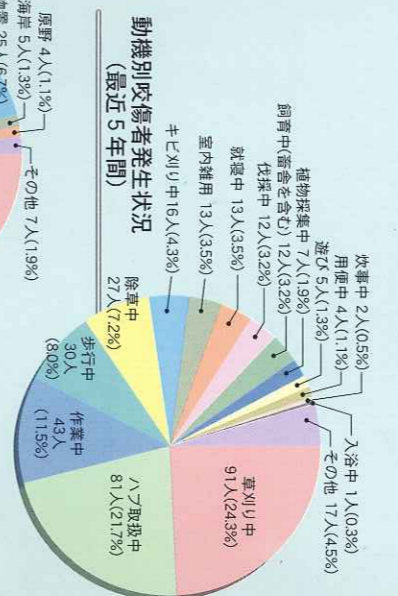
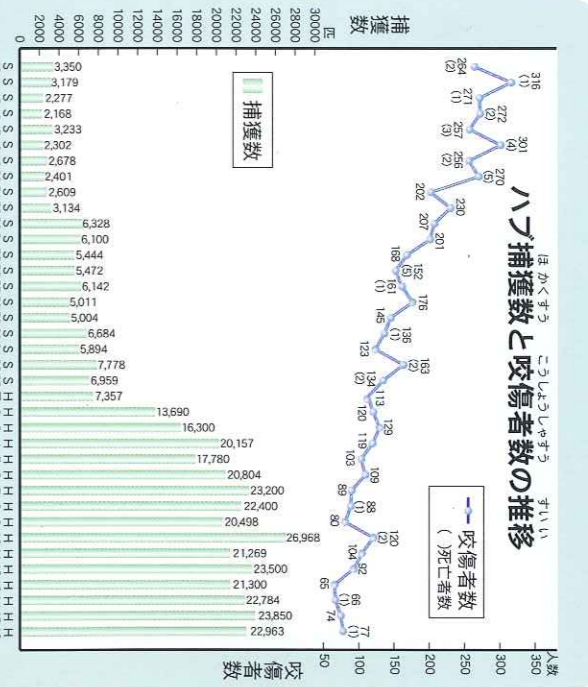
ハブは肉食動物です。ハブが捕食している80%がネズミ類で、他に鳥類や爬虫類、両生類も捕食しています。従って、人の生活圏からネズミを駆除することがハブを寄せ付けない秘訣といえます。

ハブは、耕作地帯を中心に人の集落地帯まで、山地や平地の至る所に生息し活動しています。行動の大部分は餌になる動物を求めての行動ですが、その一日の行動半徑はせいぜい100メートル程度だと考えられています。一度身かけたらまだその付近にいると思われるので注意が必要です。

ハブの活動に適した温度は、18℃〜30℃位の範囲で、24℃位の時が最も活動しやすいようです。一年の中では、4月から6月と9月から10月が活動の盛んな時期になりますので注意が必要です。また、体温が33℃〜35℃を超えると急激に衰弱して死んでしまいます。真夏の7月と8月は、ハブにも暑すぎるのであまり出歩かないのです。

## ハブに 咬まれないための 7か条

- 1 道路の中央を歩く。
- 2 不用意に草むらに入らない。
- 3 夜は照明を持って歩く。
- 4 ハブやネズミの隠れ場所になる家の周りの草や木の枝などを刈る。
- 5 草むらにはいるときは深い長靴を履き棒であらかじめたたいてから進む。
- 6 やぎ小屋、牛小屋などの戸を開けて入るときは、上下左右・頭上を確かめてからはい入る。
- 7 草むらや川岸などで作業するときは、つばの大きな帽子、厚手の長袖シャツ、革の手袋、脚はん、長靴を着用する。



【写真提供・監修協力】  
奄美観光ハブセンター  
所長 中本 英二

## ハブに咬まれたら (ハブ咬傷初期治療法・携帯用ハブ毒吸出器使用方法)

ハブに咬まれたら、すぐに病院で治療を開始することが大切です。また、病院に着くまでの応急処置がきわめて重要です。

①、ハブに咬まれたら、あわてずに落ちついて次のような行動をとります。

- ① HEE-UP! 誰か来てーっ! ite te, ite te HEE-UP! 誰か来てーっ!
- ② 毒を吸い出す。早く血液と一緒にハブ毒を体外に吸い出してしまえばいい。毒の吸い出しは、人の口または毒吸い出し器を利用して病院に着くまで続けましょう。
- ③ また、毒が体内に広がるのを遅らせるため、傷口より心臓に近いところをタオルなどできつく縛ります。
- ④ できるだけ早く病院に着くようにします。あらかじめ病院に電話連絡などしておけば早く血清などの治療の準備ができます。



■ハブ対策推進協議会 (名瀬市永田町17-3大島支庁総務課内) ☎ 0997-57-7215

■名瀬保健所 (名瀬市柳町2-1) ☎ 0997-52-5411

■徳之島保健所 (大島郡徳之島町電津4943-2) ☎ 0997-82-0149

桌では、作業着のポケットにも入り、手軽に一人ですの吸い出しができる「携帯用ハブ毒吸出器」の普及を図っています。

「携帯用ハブ毒吸出器」

①咬まれた場所に合わせて透明のカップを選び、筒先にしっかりと取り付けます。

②白いシリンダーをいったいに引き出し吸い出しカップを傷口に押し当てます。

③そのままシリンダーを最後まで押し入れます。その時、少し力が必要ですので、ひざや立ち木などで支えてやるとうまくなります。病院に着くまで繰り返し吸い出してください。

注意

1. 吸出器はあくまでも応急処置ですので必ず病院に行つて医師の手当てが必要です。
2. 「毒吸出器」は、薬局、薬店で購入できます。